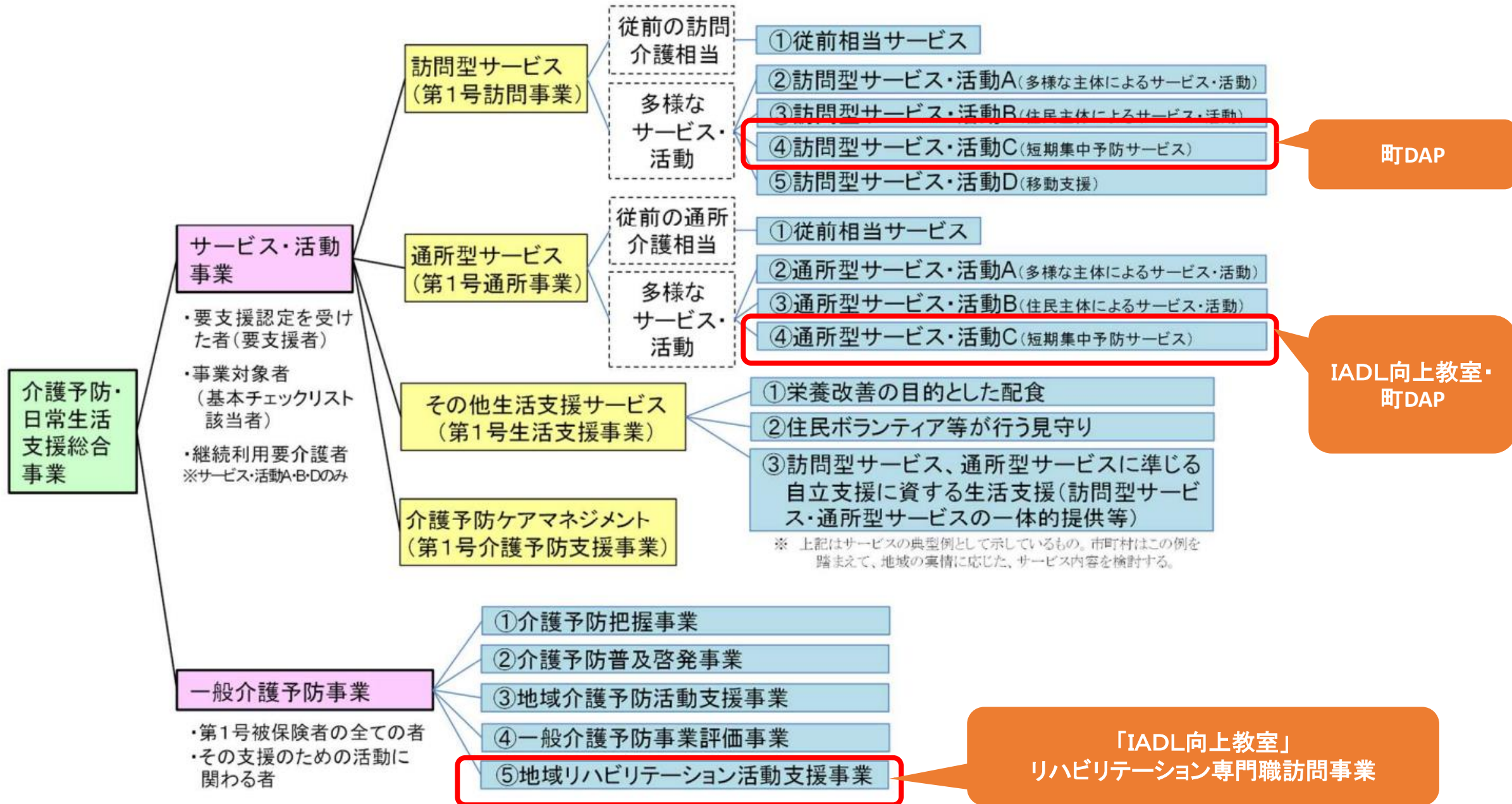


短期集中型サービス
(サービス・活動C) とは

内容

- 総合事業について
- 短期集中型サービスの位置づけ
- 町田市の短期集中型サービス
- リハ専門職の役割
- 町田市における事業の効果

介護予防・日常生活支援総合事業の構成



総合事業の概要

○総合事業の目的

総合事業は、認知症や障害の有無にかかわらず、地域に暮らす全ての高齢者が、**自立した日常生活を送ること、また、そのための活動を選択することができるよう、**（中略）地域住民や医療・介護の専門職を含めた多様な主体の力を組み合わせて実施することにより、地域の高齢者に対する効果的かつ効率的な支援等を行うことを目的としている。

○総合事業の基本的な考え方（抜粋）

介護予防の推進に当たっては、リハビリテーションの理念を踏まえて、**「心身機能」「活動」「参加」のそれぞれの要素にバランスよく働きかけることが重要である。**そのため、**リハビリテーション専門職等を活かした自立支援に資する取組を推進する。**

短期集中型サービス（訪問/通所型サービス・活動C）の概要①

○サービス・活動事業の目的

サービス・活動事業は、居宅要支援被保険者等の**社会参加、介護予防及び自立した日常生活のためのニーズに対応するため、**（中略）専門的なサービスに加え、**地域住民の主体的な活動や高齢者の日常生活と密接に関わる地域の多様な主体**による支援等の多様なサービス・活動による支援を行うことを目的とする。

○短期集中型サービスの内容

高齢者の目標の達成のための計画的な支援を短期集中的に行うことにより、**介護予防及び自立支援の効果が增大すると認められる者に対し、**3月以上6月以下の**期間を定めて保健医療に関する専門的な知識を有する者により提供される**ものであって、市町村が直接又は委託することにより実施するものをいう。

短期集中型サービス（訪問/通所型サービス・活動C）の概要②

○留意事項（抜粋）

- ・対象者が自身の生活機能の低下等について自覚を持ち、**介護予防に意欲的に取り組めるように支援すること。**
- ・居宅を訪問し、**支障をきたしている生活行為の原因を、居宅や地域での生活環境を踏まえ、適切にアセスメントし、課題を抽出すること。**
- ・サービス終了後も余暇やボランティア活動、通いの場、**一般介護予防事業等の社会参加に資する取組が維持**されるよう配慮すること。

町田市が短期集中型サービスに期待するメリット

- ①現在の心身の状況や機能低下の原因に**本人が気づく**ことができる
- ②**目標のため（希望する生活のため）にサービスを利用する**という考え方を身に付けることができる
- ③**セルフマネジメント**や毎日の活動の重要性に気付いてもらう
（週1～2日のデイサービスだけで維持・改善は難しい）

短期集中型サービス（サービス・活動C）事業とは**短期間で機能改善を目指すサービス**です。

利用者が目標をもって短期間のプログラムを実施し、生活の質やセルフマネジメント力の向上を目指していきます。

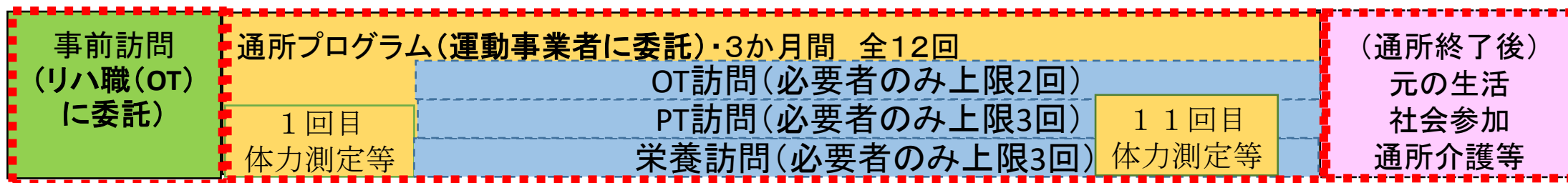
また、終了後、機能低下前の生活に戻ることや地域での活動等に移行することで、改善された状態を維持・改善することを視野にいたサービス提供を行います。

（イメージ図）



IADL向上教室

【IADL向上教室スケジュール】

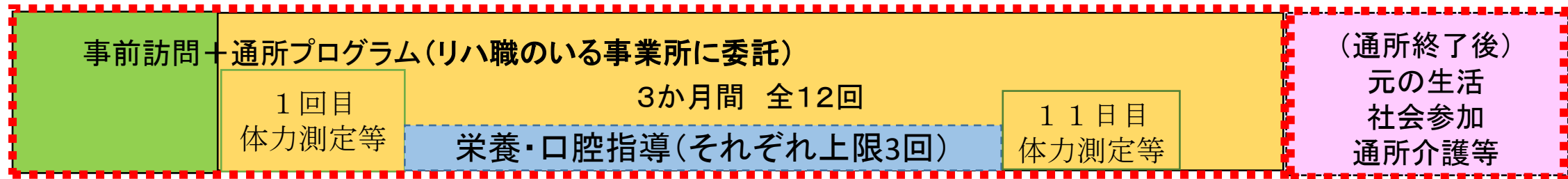


IADL向上教室の特徴

- リハビリテーション専門職が、事業開始前に自宅を訪問（必要時、中間・終了時も実施）
- 運動を中心としたプログラムで、利用者に合ったプログラムを提案
- 他の参加者との交流による効果も活用
- 「通いの場」につながりやすくなるよう、プログラムに「町トレ」を取り入れる

町DAP

【町DAPスケジュール】



町DAPの特徴

- 事前訪問と運動プログラムを同じ事業者（リハビリテーション専門職）が実施
- 運動だけではなく、面談による「セルフマネジメント」力をつけるプログラムを実施
- 利用者への動機づけ、意欲向上を重視したプログラムを実施
- 利用者の目標に対し、「通いの場」「運動」に偏らない、多様な社会資源を活用

【IADL向上教室・町DAP こんな方にお勧め！】

IADL向上教室

体を動かして
体調を良くしたい

誰か仲間と一緒に
取り組みたい

特に運動面を
取り組みたい



町DAP

専門家と
じっくり相談したい

一人でしっかり
取り組みたい

フレイル全般（栄養・口腔・
運動すべて）取り組みたい

総合事業におけるリハビリテーション専門職の役割

○総合事業を実施する際にリハ職が主に関与する事業

- ・地域リハビリテーション活動支援事業等を活用した同行訪問
- ・短期集中予防サービス
- ・地域ケア個別会議等

○総合事業を効果的に展開していくために求められるリハ職の役割

- ・リハ職の専門性をいかしたケアマネジャーや利用者に対するアセスメント支援
- ・対象者が元の暮らしを再獲得できるよう支援すること

リハビリテーション専門職によるアセスメント支援

○リハ職に期待する専門性

- ・ 医学的観点から見た**障害因子の考察**や**改善可能性の見通し**をたてられる
- ・ 面談等を通して本人の生活歴や価値観、そのほか個人因子等多くの深い情報を収集し、統合することで、**対象者にとって最適な目標設定**ができる

参考：東京都「短期集中予防サービスを中心とした介護予防・日常生活支援総合事業の効果的な実施に向けた手引き」（令和6年3月発行）

元の暮らしを再獲得できるよう支援すること

〇町DAPで面談中心のセルフマネジメント支援を中心としている理由

- ・利用者が元の暮らしを再獲得するためには、利用者自身が主体的に健康を管理することができる**セルフマネジメント能力を身につける**ことと、本人にとって必要な地域資源を活用することが必要
- ・セルフマネジメント能力を身につけるためには、面談プログラムで生活課題の整理と解決方法を利用者と一緒に考え、**利用者自身が生活課題の解決のためのPDCAサイクルを回すことができる**よう支援することが肝要

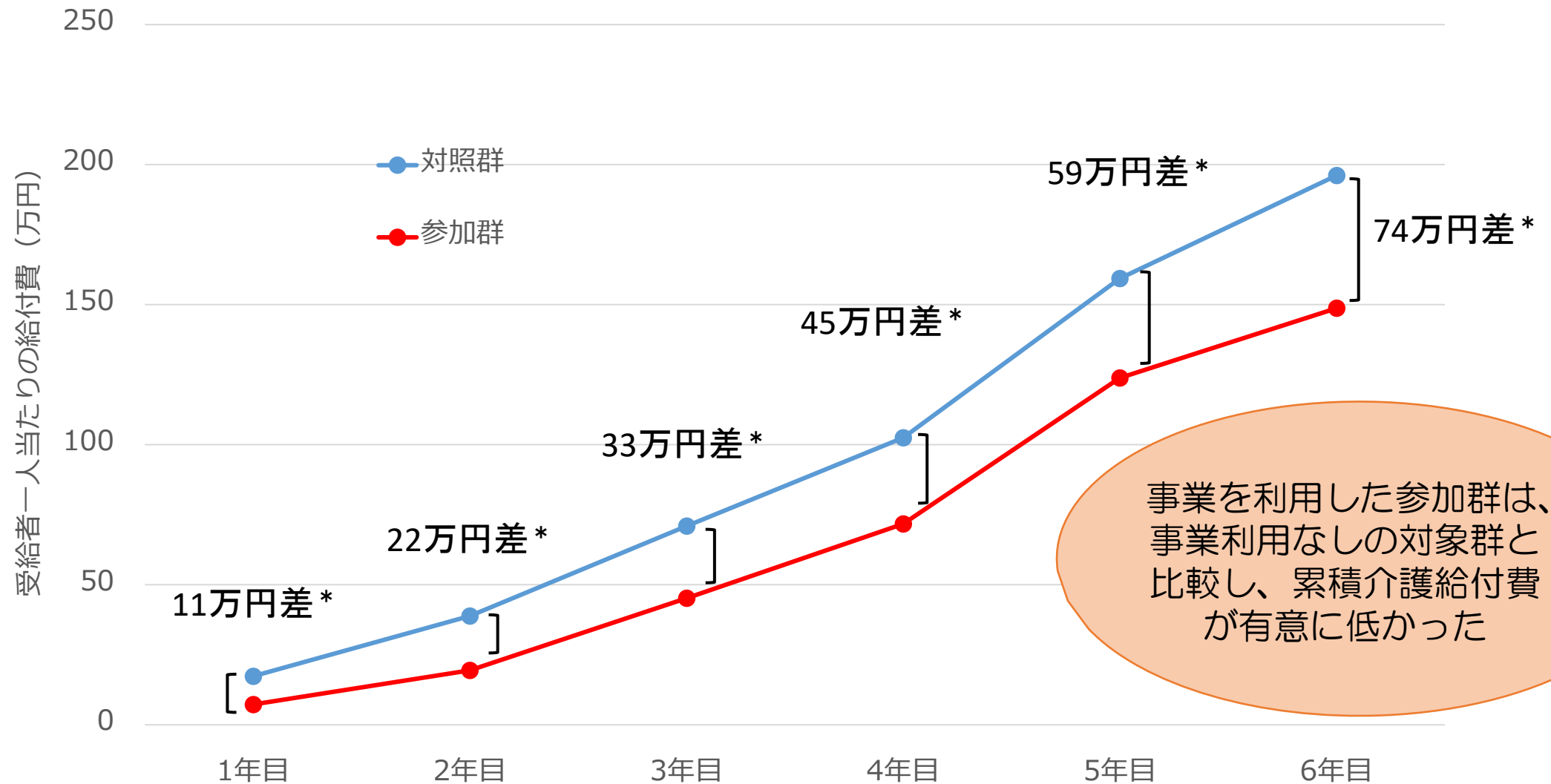
各事業の開始時と終了時の体力測定値比較

どちらの事業も、下肢機能に関する測定値が有意に向上している

	握力		片足バランス		TUG		CS-30	
	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了
IADL 向上教室	3.0 ±1.60	3.0 ±1.65	2.4 ±1.34	2.5 ±1.39	2.3 ±1.34	2.7 ±1.36	2.4 ±1.20	3.2 ±1.13
	0.617		0.447		0.001		0.000	
町DAP	3.1 ±1.16	2.7 ±1.41	2.7 ±0.69	2.9 ±1.64	1.3 ±0.69	1.4 ±0.70	1.9 ±0.96	2.5 ±1.10
	0.190		0.391		0.577		0.031	

対象：2022年度 IADL向上教室修了者46名、町DAP修了者18名 P<0.05

町田市における事業の効果



性、年齢、世帯構成、要介護度、所得階層、要介護リスク得点の指標を用いて対照群と参加群でマッチングした後線形回帰分析を実施した。*; $p < 0.05$ 。差額は線形回帰分析の結果を示す。

資料: JAGES (2025) 【町田市】短期集中型サービス(サービスC)事業の効果評価に関する分析